

平成 29 年度 若松原中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

（1）基本目標

人間尊重の精神を基盤として、知・徳・体の調和のとれた高い知識と豊かな心を持ち、たくましい人間を育成する。

（2）具体目標（目指す生徒像）

- ① 自ら学ぶ生徒
- ② 心豊かな生徒
- ③ たくましい生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ 「主体的に学力を高め、心を耕し、心身を鍛える生徒の育成」

知識基盤社会の時代といわれる 21 世紀を生きる人間にとって、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視した「生きる力」を育むことは、ますます重要である。そのため、歴史と伝統及び良き校風を大切に繋げ、発展させ、人間尊重の教育を推進し、未来を切り拓く意欲や豊かな創造性の育成に努め、創意ある教育課程を編成して、生徒自らが主体的に学力を高め、奉仕と思いやりの心を育て、心身を鍛えることで、教育目標を達成させるようにする。

また、生徒が生き生きと主体的に取り組む教育活動の実践のため、学業指導の充実、学校園及び学区内の小中学校との連携や協同の充実、学校の公開や情報の発信、家庭・地域・企業との連携や協同の充実などを意図的・計画的な学校経営を行うことで、保護者・地域住民から信頼される学校づくりをする。

3 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1）学業指導の充実を図ることで、確かな学力、豊かな心、健康・体力を育む。
- （2）基本的な学習習慣や態度を身に付けさせ、分かる授業を通して確かな学力を育成する。
- （3）自己肯定感・自己有用感を育み、生命尊重と他人を思いやる心を持った生徒を育成する。
- （4）基本的な生活習慣の確立・集団規律の遵守を通して、規範意識の向上を図る。
- （5）教職員自らが課題意識を持ちながら、教育の専門家としての自負を持って研鑽に励む。
- （6）学校の公開や情報の発信（HP、各種たより等）を積極的に行うことで、家庭、地域、関係機関等との連携を強化する。
- （7）○小中一貫教育の充実、地域学校園の連携や協同を積極的に行うことで、児童生徒が発達段階に応じた一貫性のある教育を継続的に実践する。

[若松原地域（WGS）学校園教育ビジョン]

「つなげよう学び 育てよう心と体 共にのびよう WGS 学校園」

小学校入学から中学校卒業・進路の実現までの 9 年間の学校教育を「関わる教職員の思いと責任を共有し連携して、児童生徒のそれぞれの発達段階に応じた一貫性のある教育や指導として」継続的に実践する。

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

～自己実現（社会的自立）を図るための指導・支援の充実～

- ・「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の充実
- ・主体的に判断し、行動できる生徒の育成
- ・心身の健康を把握し、自他への思いやりの心の育成
- ・学力向上のため、小中一貫教育の教科部会や分科会の充実

【学 習 指 導】

～学びに向かう集団づくりと子どもが意欲的に取り組む授業づくり～

- ・学び合い活動を通して、コミュニケーション力の向上を推進する。
- ・分かる授業を展開し、生徒の学習意欲の向上を図る。

【児 童 生 徒 指 導】

～自己指導能力の育成～

- ・自ら判断し、責任を持って実行できる生徒を育成するため、自己指導能力の育成・向上を図る。
- 自ら課題に立ち向かい、思いやりと協同を実行し、自他共に成長できる学習集団の雰囲気を作り、学力向上の基礎・基盤となるよう推進する。

【健康（保険安全・食育）・体力】

～心身共に健康的な生活を目指して～

- ・健康・運動・食に関する指導を通して、体力の維持や増進・食習慣や食のマナーの体得など、健康的な生活習慣づくりを推進する。
- ・自他の生命や心の健康を大切にし、知識・理解を深めて安全で豊かな生活を送れるようにする。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評 価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、今の学校が好きです」 ⇒ 生徒の肯定的回答 88%以上 → 87.2%	居がいのある学校をめざし、学校行事等生徒が主体的に活動できる場をより多く設定し、自尊感情を育成する。 クラスの友人との関わりを楽しむ活動や一人一人に役割がある活動を工夫し、互いに励まし合うことのできる学級づくり、集団づくりを行う。	B	【達成状況】 生徒の肯定的評価は 87.2%（昨年度より 1.9 ポイント↑）であるが、数字目標の 88%をわずかに下回った。 【次年度の方針】 ・学校行事や生徒会活動の目標や趣旨を十分に理解させ、お互いに励まし、認め合う集団づくりを実践していく中で、生徒一人一人が達成感や自己肯定感を得られるよう諸活動を推進していく。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生は、大切なことを熱心に指導してくれる」 ⇒ 生徒の肯定的回答 93%以上 → 93.5%	○学習や活動のねらいを明示し、授業の中で、できた喜びや成就感を実感できる場や機会を意図的に設け賞賛する。 「できた」「わかった」という喜びを味わわせる授業を展開し、取組の課程や結果を具体的にほめたり、励ましたりする。	A	【達成状況】 「先生は、大切なことを熱心に指導してくれる」の肯定的評価は 93.5%で、数値目標の 93%を上回っている。 【次年度の方針】 ・生徒一人ひとりが自尊感情を高め、学習や諸活動に生き生きと取り組めるよう、校内研修を充実させ、教職員の資質、能力の向上を図っていく。

A 3 生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上 → 84.1%	○家庭や地域に生徒の様子を理解していただくこととルールや法律を遵守する判断力と行動力が身につくように協力を要請する。 「学校は社会のルールを学ぶ場である」という共通理解のもと、全教職員が指導内容を明確に把握し、毅然とした指導を行う。	【達成状況】 「生徒は、授業と生活の決まりやマナーを守って生活している」の肯定的評価が 84.1%で数値目標の 85%をやや下回った。しかし、保護者の肯定的評価については 79.5%→85.3%と増加しており、課題が改善されつつあると捉えている。 【次年度の方針】 ・日常的な心の教育のさらなる充実と、教科化を視野に入れた道徳の時間の指導の改善を図る。 ・生活マナー等においては、学校生活のあらゆる場面でその都度指導していくとともに、家庭や地域へ協力を要請していく。
A 4 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人ひとりに丁寧に教えてくれる」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上 → 87.4%	○個に応じたきめ細かな指導を行い、数学科、英語科では習熟度別学習やＴＴなど指導形態を工夫し、学力の向上を目指す。 ○授業の始まりに授業のねらいや身に付けたい力を示したり、授業の最後には、振り返りを行ったりすることにより、生徒の学習活動をより活発にするための指導法の改善を図る。	【達成状況】 「先生方の授業は、分かりやすく、一人ひとりに丁寧に教えてくれる」の肯定的評価は 87.4%で、数値目標の 85%を上回っている。 【次年度の方針】 ・生徒一人ひとりが意欲的に学習に取り組み、学力の向上が実感できるよう、教職員が互いに研鑽する機会を充実させ、授業改善をさらに進めていく。
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 先生方は「いじめ」は許されないことを熱心に指導してくれる。 ⇒ 生徒の肯定的回答 95%以上 → 96.1%	毎日の校内巡回やスタンダードダイアリーの確認、定期的な教育相談やチャンス相談及びいじめ調査等を活用し、いじめへの早期対応や早期発見・未然防止に努める。 生徒一人一人に存在感や達成感を与えとともに、思いやりの心や規範意識を高めることで、いじめの未然防止に努める。	【達成状況】 「先生方はいじめは許されないことを熱心に指導してくれる」の肯定的評価は、96.1%で数値目標の 95%を上回っている。 生徒の肯定的回答はかなり高い数値が出ているが、保護者の回答は 64.4%と低く、学校での取組がまだ理解されていない。 【次年度の方針】 ・学校はいじめ対策について、保護者会や生徒指導部、学年通信等、あらゆる機会を利用して周知していく。 ・いじめの問題は、学校、家庭、地域及び関係機関が連携して取り組むべき問題であることを機会あるごとに啓発していく。
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケートの「学校の日課・授業・行事などは、適切に実施されている」 ⇒ 保護者の肯定的回答 96%以上 → 96.4%	校務運営委員会で行事などの日程調整とともに校務分掌の進捗状況等を話し合う場を設けることで、教育課程表の適切な実施に努める。 「学校行事に全力で取り組むことができる」という本校の特徴を生かせるよう、生徒が主体的に活動できるような教育課程の編成に努める。	【達成状況】 「学校の目標・授業・行事などは、適切に実施されている」の肯定的評価は、96.4%で数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 ・本校の実態や課題等を踏まえ、生徒一人一人にとって有効で自己存在感を高めることができるような教育課程の編成に努める。

A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒ 保護者及び地域住民の肯定的回答 93%以上 → 92.6%	各種たよりやホームページを生かし情報を積極的に発信し、保護者・地域との連携を推進する。 ○小中一貫教育について理解していただくための情報提供とともに、オープンスクール等を利用して地域に対しても授業を公開するなどにより中学校教育への理解を深めてもらう。	B 【達成状況】 「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」の保護者及び地域住民の肯定的評価は 92.6%、で数値目標である 93%以上を下回っている。 【次年度の方針】 ・次年度も各種便りやホームページ、校門付近に設置してある掲示板等の積極的な活用により保護者、地域住民への情報発信に努める。特にホームページの更新日を定期的に設けていく。 ・小中一貫教育についても、地域として取り組んでいることを積極的に PR していく。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒ 保護者および地域住民の肯定的回答 90%以上 → 90.5%	若松原中学校地域協議会との連携を図ることを通して、地域の教育力を学校教育活動に生かせる場を設けていく。 地域や企業に本校の実態についての情報を積極的に発信することなどを通して、連携を深め、1年生の「働く人に学ぶ」、2年生の「社会体験学習」において、より効果的な学習が展開できるように努力していく。	B 【達成状況】 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」の保護者の肯定的評価が 90.5%で数値目標の 90%より上回っている。 【次年度の方針】 ・若松原中学校地域協議会との連携を図り、地域の教育力を学校教育活動に取り入れた活動をしていく。 ・地域や企業に向けて、本校の実態についての情報を積極的に発信するために、各種たより等のホームページへの掲載を継続する。 ・1年生の「働く人に学ぶ」、2年生の「社会体験学習」において、より効果的な学習が展開できるように努力していく。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」 ⇒ 保護者の肯定的回答 85%以上 → 87.4%	生徒会整美委員会を中心に、定期的な清掃強化週間を設けたり、校内美化に向けた呼びかけを行ったりして、生徒自身の校内美化に対する意識を高める。 計画的な修繕を実施するとともに、PTA 奉仕活動等による環境美化への協力を依頼していく。	B 【達成状況】 「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」の保護者の肯定的評価が 87.4%で数値目標の 85%より上回っている。 【次年度の方針】 ・施設の老朽化が進み、修繕が必要な箇所が多数あるため、生徒の安全を第一に考えながら、市教委と連絡を密にし、計画的に修繕を進めていく。 ・日頃の清掃活動については、その方法の改善を図りながら、さらなる充実を図っていく。 ・PTA には奉仕活動等による環境美化への協力を依頼していく。 ・地域協議会に対しては、本地域ならではの強みを生かした学校バラ園・花壇の整備等の協力を引き続き依頼していく。
A 10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 → 68.8%	生徒会を中心に合同のあいさつ運動を行ったり、ボランティア活動で交流したりすることにより、生徒の地域学校園の一員であるという意識を高める。 交流授業を通して、小学生の中学校に対するギャップの軽減を図る。	B 【達成状況】 「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている」の生徒の肯定的評価が 68.8%で数値目標の 80%より下回っている。 【次年度の方針】 ・生徒会を中心に行っている合同あいさつ運動を、一般の生徒が参加できるように拡充する。 ・各小・中学校の地域協議会との連携を図り、小・中学生がともに取り組むことのできる活動を探し、生徒に積極的に参加するよう呼びかけていく。

教育活動の状況	生活	A11 生徒は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒はあいさつをしている」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上 → 91.1%	生徒会執行部や生徒会生活委員会を中心とした「あいさつ推進活動」を実施し、生徒相互にあいさつがしあえるよう校内の雰囲気づくりを推進する。 P T Aや地域協議会健全育成部会と連携し、朝の挨拶運動や全校一斉下校の日の下校指導を実施し、保護者や地域の方とのあいさつをきっかけとしたコミュニケーションを図る。	【達成状況】 「生徒はあいさつをしている」の肯定的評価が91.1%で、数値目標の90%を上回っている。 【次年度の方針】 ・「先行あいさつ」の拡大を図る。また、「あいさつ推進運動」を通して、リーダーの育成を図るとともにコミュニケーション力の育成も図る。 ・PTA 及び地域協議会と連携した「あいさつ運動」や下校指導を通して、地域との結びつきを強め、地域全体であいさつが飛び交う雰囲気作りを中学校から発信していく。また、地域社会の一員であるという自覚を持たせ、地域のために協力していく心を育てていく。
		A12 生徒は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は正しい言葉づかいをしている」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 → 79.9%	○学校生活のあらゆる機会を捉えてT. P. O. に応じた正しい言葉づかいができるように指導するとともに、正しい言葉遣い強調週間を設け、生徒及び教職員の意識を高め、指導を徹底する。 学校だよりや保護者会等で家庭へも現状を知らせ、家庭と協力して正しい言葉遣いを推進していく。	【達成状況】 「生徒は正しい言葉づかいをしている」の肯定的評価は79.9%で、昨年度77.4%から微増し数値目標の80%をほぼ達成している。 【次年度の方針】 ・教職員の意識を高め、授業中、休み時間等学校生活のあらゆる機会を捉えて正しい言葉づかいを指導していくとともに、学校だよりや保護者会等で家庭へも現状を知らせ、協力して正しい言葉づかいができるよう指導していく。 ・言葉づかいを見直す週間を設け、道徳や学活、宮チャレなどとも関連させながら、生徒および職員の意識を高める機会とする。
		B 1 読書の習慣化を図り、心豊かな生徒を育成する。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、本（読書）が好きになった。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 → 76.9%	学校図書館、学級文庫の整備を進めるとともに、年間を通して計画的に朝の読書を実践する。 読書の醍醐味を伝える活動を強化するとともに、家庭にも毎日の読書時間の確保などの協力を仰ぎながら、読書意欲の向上につなげていきたい。	【達成状況】 「自分は、本（読書）が好きになった。」の肯定的評価は76.9%で数値目標の80%を下回っている。 【次年度の方針】 ・H26年度から、朝の読書の時間を毎朝確保していることが生徒の肯定的評価の安定につながっている。 ・保護者の評価が、54.3%と相変わらず低いので、図書便り等を通して、家庭にも毎日の読書時間の確保などの協力を仰ぎながら、読書意欲の向上につなげていきたい。
	健康・体力	A13 生徒は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は休み時間や放課後などに積極的に運動している」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 → 78.0%	保健体育委員会を中心に、昼休みの運動を呼びかける。 体育の授業における各種競技において個人の目標を設定し、目標を持たせることで、主体的に運動に取り組むきっかけとする。	【達成状況】 「自分は休み時間や放課後などに進んで運動している」の肯定的評価は78.0%で数値目標の80%を下回っている。 【次年度の方針】 ・昼休みや放課後の運動について、生徒への呼びかけをしていく。 ・使用できる施設や物品の検討を行い、生徒が運動しやすい環境づくりに力を入れる。

		A14 生徒は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、給食を好き嫌いなく食べている」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 → 74.3%	○地域学校園内で連携を図りながら、食育の充実を図る。 ○食べることの意義や、栄養のバランスをとる必要性を理解させる。 生徒や教職員に対するリクエスト給食の実施等により、残食を減らす努力をする。	B	【達成状況】 「自分は、給食を好き嫌いなく食べている」の肯定的評価が 74.3%で数値目標の 80%を下回っている。 【次年度の方針】 ・給食指導、学級活動等で栄養のバランスが大切なことであるという知識としての食育に加え、その実践が健康な生活につながることを継続して指導いく。 ・献立表や食育だより等を活用し、保護者への啓発を行うとともに協力を依頼し、連携しながら食育の充実に努める。
		B2 生徒は、毎日朝ごはんを食べている。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、毎日朝ごはんを食べている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 95%以上 → 90.9%	学級活動や給食だよりを通して、食の大切さを理解させるとともに各家庭へも協力を依頼する。 地域学校園としてお弁当の日を通して小学校から食への意識を高めていくことも実施する。	B	【達成状況】 「自分は、毎日朝ごはんを食べている。」の肯定的評価は 90.9%で数値目標の 95%を下回っている。 【次年度の方針】 ・朝ごはんを食べることによる学習面や生活面への効果を科学的に指導するとともに、各家庭への理解と協力を引き続きお願いしていく。 ・地域学校園が連携しながら「お弁当の日」等の実践を通して、小学生のうちから食への意識を高めていく。
	学	A15 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上 → 84.6%	「学力の向上」に向け、各教科部会の充実を図り、一人一人の能力や適性、特性、意欲の状態等の現状を把握し、個に応じた支援策を講じていく。 生徒が意欲的に取り組むための授業づくりを常に心がけ、「わかる授業」の確立を目指す。	A	【達成状況】 「生徒は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している。」の肯定的評価が 84.6%で数値目標の 85%を若干下回っている。 【次年度の方針】 ・学習指導主任や教科・領域主任を中心に、本校の実態に合わせて「教えて考えさせる授業」を展開する。 ・探求型の授業や言語活動の充実を図り、生徒一人一人が主体的に取り組むような授業づくりを進める。 ・授業中における集団づくりを実践する。
		A16 生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 → 73.3%	○教材や発問、話し合う場の設定の工夫をし、進んで学習に取り組む態度を育てる。 ○生徒一人一人に即した授業を展開し、学業指導の充実を目指す。	B	【達成状況】 「生徒は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している。」の肯定的評価は 73.3%で数値目標の 80%を下回っている。 【次年度の方針】 ・定期的に授業研究会を実施するなど、教科部会のさらなる充実を図り、お互いの教師力の向上を目指す。 ・「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」をさらに充実させるため、効果的なグループ活動や話し合いの場を設定するなど、本校の実態に合わせたアクティブラーニングの在り方を研究していく。

	B 3 チャイムを守って授業にのぞんでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、チャイムを守って授業の準備をしている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 → 85.6%	学級委員に時間を守ることの意義を呼びかけさせ、生徒が主体的に行動できるようにする。 各クラスのリーダーを育成することを通じて、生徒自ら主体的に行動できるように、共通理解を図りながら、指導を繰り返していく。	B 【達成状況】 「自分は、チャイムを守って授業の準備をしている。」の肯定的評価が 85.6%で数値目標の 80%を上回っている。 【次年度の方針】 ・時間を守ることの大切さを教師自ら率先垂範し、生徒の意識を高めていく。 ・各クラスのリーダーを育成することを通じて、生徒自ら主体的に「5分前行動」の呼びかけを行い、共通理解を図りながら、時間を守るムードの醸成を図る。
本校の特色 ・課題等	B 4 居がいのある学校づくりのひとつとして生徒主体の学校行事に向け改善を図る。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、体育祭や文化祭で一生懸命活動し役割を果たせた。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上 → 96.4%	学校行事等において生徒の自主的な活動を促し、生徒の自尊感情の育成や他者理解を意図的に推進する。 「生徒の生徒による生徒のための」学校行事となるよう、教職員が共通理解を図り、生徒一人一人が主体的に活動できるような場を設定する。	A 【達成状況】 「自分は、体育祭や文化祭で一生懸命活動し役割を果たせた。」の肯定的評価が 96.4%で、数値目標の 90%以上を上回っている。 【次年度の方針】 ・各学校行事が「生徒の生徒による生徒のための」行事となるように、生徒に任せられる活動は生徒に任せて生徒による主体的な取り組みの場面を増やす。 ・生徒が達成感を得られるよう、計画的な準備と細かな点にも配慮された指導を心がける。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

●アンケートから概ね良好と考えられること（教職員・保護者・地域住民・生徒の全てで肯定的回答が 80%を超えている項目）は昨年の 5 項目から 9 項目に増えた。また、肯定的回答が昨年より 3 ポイント以上増加している項目（評価対象数値）は 3 項目あり、継続的な取組がよい効果につながっている結果が得られた。今後も、具体的な目標を設定しながら取組の強化を図っていききたい。

●アンケートから分かる課題と考えられること（評価者の中でいずれかの肯定的回答が 70%未満の項目）

・「学校はいじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる。」（保護者 64.4%）

学校はいじめ対策について、保護者会等での周知や啓発に取り組んできたことで、昨年度から 12.8 ポイントの増加が見られた。今後はさらに、あらゆる機会を通して学校と家庭、地域及び関係機関との連携が重要であることを周知しながら、いじめ防止に向けて取り組んでいきたい。

・「学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され、学習しやすい環境である。」（教職員 68.6%）

・「生徒は、時と場に応じた言葉づかいをしている。」（教職員 62.7%）

これら 2 つの項目は、教職員の評価が他評価者より低い結果である。今後は現状をきちんと把握しながら、必要に応じて具体的な手立てを講じ、指導の充実を図っていききたい。

・「学校は、小学生や中学生が連携した取組を主体的に行っている。（生徒 68.8%）

児童生徒にとって、よりよい連携とはどのようなものかをきちんと検証し、地域や関係機関と協議しながら主体的な活動になるよう取り組んでいきたい。

・「生徒は、本(読書)が好きになった。」（保護者 54.3%）

保護者評価が、生徒評価と 22.6 ポイントの差があることは、家庭の中で読書の習慣が見られないものと考えられる。学校図書館の利用の充実を図るとともに、生徒や保護者に、学校以外での読書時間の確保が、学力向上や多様な考え方の形成に効果があることを知らせ、今後も読書意欲の向上を図っていききたい。

6 学校関係者評価

- 先生方、地域の方々に見守られて、若中生は日々成長できるのだなと感じました。感謝の気持ちでいっぱいです。
- 運動会や文化祭など行事を見ると若中生も先生もとても活気があり素晴らしいと思います。
- 反面、あいさつ運動では半数ぐらいの子供たちは背中が丸まって声が小さいあいさつだった印象がありました。あいさつ一つですが、もっとさわやかで元気な声が飛び交うことを期待しています。
- そば打ち教室は、地域の方々と交流する良い機会ですが、せっかく若中でやるので、若中生も中心となる部分があってもよいのかなと思いました。
- 中学に入ると行事が平日なので、父親の参加が少ないです。土、日にあるとよいと思います。
- 学校で一番大切であり、大事にしていきたいこと。
 - ・活があり、明るい雰囲気であり、生徒にとって楽しい学校生活が送れる環境であってほしい。その点、若中は、生徒、保護者、教職員、地域住民いずれも高評価であり素晴らしい。
- 次にいじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいるについては、保護者が低い評価である。
 - ・先生方は一生懸命取り組んでいるが、保護者に伝わっていないのでは？ 今以上に保護者とコミュニケーションが必要なかもしれない。
- 今後も引き続き、学校、家庭、地域の連携を大事にして素晴らしい学校運営をお願いしたい。
- 登下校の様子を見ると、とても明るく落ち着いた感じが見られます。授業の様子はわかりませんが、今の生徒は、声掛けにも素直に答えてくれる生徒が増えてきていると感じます。
- 概ね良い結果であり、日々のご指導の成果であると感じます。「マナーや決まりを守ること」や「時と場合に応じた言葉遣い」については、個人差もあると思います。礼節強化週間等を設け、子供たちの意識を高めることは大切なことだと思いますので、小学校も同様に取入れ、9年間を通した取組につなげていきたいと思っています。
- 様々な分野で生徒の活躍が報告され、先生方や保護者の方々のご指導の成果だと思います。協議会では校長先生からの報告で知ることができますが、若中に我が子が在籍していない地域の方にも報告する方法があれば地域全体で盛り上げていけるのではないかと思います。栃木国体に向けても、ボランティアなど地域でできることにつながっていけばと思います。
- 学校内では、生徒からあいさつをしてくれるが、校外では「おはよう」と声をかけても返事があるのは、5～6人のうち、1人か2人である。生徒から声をかけろとは言わないが、せめて返事ぐらいしてほしい。
- いじめとまではいかないが、人が嫌がることをするのは問題である。例えば些細なちょっかいなど。
- 学校ではスマホは持つなど指導していると思うが、現実はどうか？ 建前論や通り一遍の注意で済むほど簡単な問題ではない。
- 教職員は愛情をもって対応していると思います。今後もよろしくお願いします。
- 地域用議会の取組は素晴らしい。コーディネーターさんの努力の賜物でしょう。頭が下がります。
- 生徒たちの素直さ、活発さは素晴らしいと思います。
- 先生たちの熱意が伝わり、感謝しています。
- 学校全体の雰囲気も良く、活気もあり、良いと思います。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校評価について、生徒・保護者・地域住民の多くの方々から回答をいただき感謝しております。本校では、前年度の学校評価をもとにそれぞれの項目の目標数値を少しずつ高めに設定し、その目標達成に向け改善を進めてまいりました。その結果、約半分の項目で目標を達成することができました。しかしその反面、目標数値をクリアできなかった項目も約半分あり、中には厳しいご意見もございましたが、それらについては皆様からの期待の表れとして捉え、教職員一同、課題の改善に向けて努力してまいります。

No1「学校全体に活があり、明るくいいきとした雰囲気である」については、教職員、保護者、地域、生徒とも肯定的回答が高く、学校関係者の方からも高い評価をいただきました。これは、生徒の「自分で考え実行する」という意識が高まり、「生徒の生徒による生徒のための活動」がより充実した成果だと思います。次年度以降も互いの良さを認め合う活動をさらに推進しながら、具体的目標を明確にして「学びに向かう集団づくり」を実践していくことにより、互いに励まし合い、認め合うことのできる学校づくりを目指していきたくて考えています。

No5「学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる」については、教職員や生徒の肯定的回答は比較的高いものの、保護者の肯定的回答は比較的低い項目でした。学校では、定期的にいじめに関するアンケートを実施したり、職員研修を行ったりして、いじめの未然防止や早期発見、早期解決に向け努力しておりますが、その情報発信が不十分であったと反省しております。しかし、いじめについては、「誰が？どんな？」などという個人情報に関わる内容は発信できませんので、ご了承ください。次年度は、これまで以上に保護者会や生徒指導便り、学年通信等、あらゆる機会を利用して本校のいじめ対策について周知していくと共に、いじめの問題は、学校、家庭、地域及び関係機関が連携して取り組むべきものであることを機会あるごとに啓発していきたくて考えております。

No11「生徒は時と場に応じたあいさつをしている」No12「生徒は時と場に応じた言葉遣いをしている」についてのご意見もいただきました。これらについては、生徒自身の肯定的回答は高いものの、教師や保護者の肯定的回答は満足できるものではなく、生徒と間に意識の違いがありました。それを受け、学校では早速「礼節強化週間」を設け、丁寧なあいさつ、適切な言葉遣いの励行について全校体制で取り組みました。今後も、このような定期的な取組に加え、「地域学校園あいさつの日」、「PTA あいさつ運動」、「地域協議会との連携による下校指導」などを通して、地域全体であいさつが飛び交い、時と場に応じた言葉遣いのできる雰囲気作りを中学校から発信し、地域全体でその機運を高めていきたいと考えています。

今後も、保護者や地域の皆様に対して「より透明性の高い開かれた学校」を目指し、本校生徒の良さや成果を発信していくと同時に改善すべき課題や学校運営上困っている点なども示しながら「地域に根ざした愛される学校」を目指したいと考えております。今後も皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。